

2018年6月末の在留外国人数は260万人を超え、過去最高となりました。また、住民の1割以上が外国人という集住地域もあります。さらには、2018年は初めて訪日外国人旅行者数が3,000万人を超え消防職員が外国人と接する機会も増えてきています。

この研修は、消防職員を対象に、非常時において、外国人の救援救助活動に迅速・的確に対応できるよう、外国人とのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、そのために必要な知識や方法を学ぶことを目的に開催します。

受講を希望される場合は、2月12日(火)までに「2019年度JAM年間派遣計画書」をFAXによりお送りください。申込手続きの詳細は、「2019年度研修計画」をご参照ください。

## 消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～

- ( 日 程 ) 5月15日(水)～5月31日(金) 17日間
- ( 内 容 )
- ・自治体の危機管理
  - ※予定
  - ・非常時に備えた地域コミュニティとの関わり方
  - ・外国人住民からみた日本
  - ・自治体の事例紹介(外国人への情報提供等)
  - ・外国人観光客の状況
  - ・施策立案演習
  - ・語学研修
  - 共通: 英語
  - 選択: 中国語又はポルトガル語
- ( 対 象 ) 消防職員(自治体の防災担当職員含む)
- ( 受講経費 ) 概ね70,000円
- ( 予定人数 ) 30名



グループワークの様子

### ■ コースの特長

- 語学授業については、受講者の語学レベルに応じた少人数のクラス編成を行いますので、安心して学ぶことができます。
- ロールプレイを取り入れて、けがをした外国人に英語で様子を確認するなど、実際の状況を想定して再現することにより、生きた英語、使える英語が体得できます。
- 第二外国語として、中国語とポルトガル語の2言語から、地域の事情に即した言語を選択し、それぞれの言語の基礎を学びます。
- 講義や演習等を通して、全国各地の消防職員と意見交換をしながら、議論を深めることができます。
- JICA(国際協力機構)からの研修生を受け入れる際にも、このコースの修了者が活躍されています。

### ■ 参加者の声

- 今回学んだことを生かして各種の訓練計画を立案し、2020年までに組織力を上げたいと思います。
- 業務における外国人対応にあたって、すぐに現場に活用できるカリキュラムで自信ができました。

【問い合わせ先】(公財)全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号(<https://www.jiam.jp>) 電話(077)578-5932 FAX(077)578-5906